

戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）

地域ICT振興型研究開発 研究期間平成25年度・平成26年度

広島発・産学官医連携体制による
高齢者見守り支援システムの研究開発
(132308004)

研究代表者 谷口和弘

研究分担者 岡島正純 岩城敏

広島市立大学

研究開発の目的

地域特有の課題 1

自動車関連産業への地域経済依存が大きい

- 電気自動車の開発・普及に伴い、エンジン等の一部の機械部品が不要となるため、電動化に対応した部品の生産、他分野への事業転換等の対応が課題となる企業が増えてくる。
- 自動車関連産業は雇用面でのウエイトが高い。
- 企業の海外進出に伴う地元産業の空洞化。



地域特有の課題 2 (全国的にも課題)

社会活力低下につながる要介護高齢者増加

- 広島市の平成24年3月の65歳以上の高齢者人口は約24万人である。平成26年度には約27人となる見込みである。増加率は年1%。
- 核家族化の進行に伴う家族の介護機能等の低下や都市化の進展による地域コミュニティの希薄化の進行。



広島市

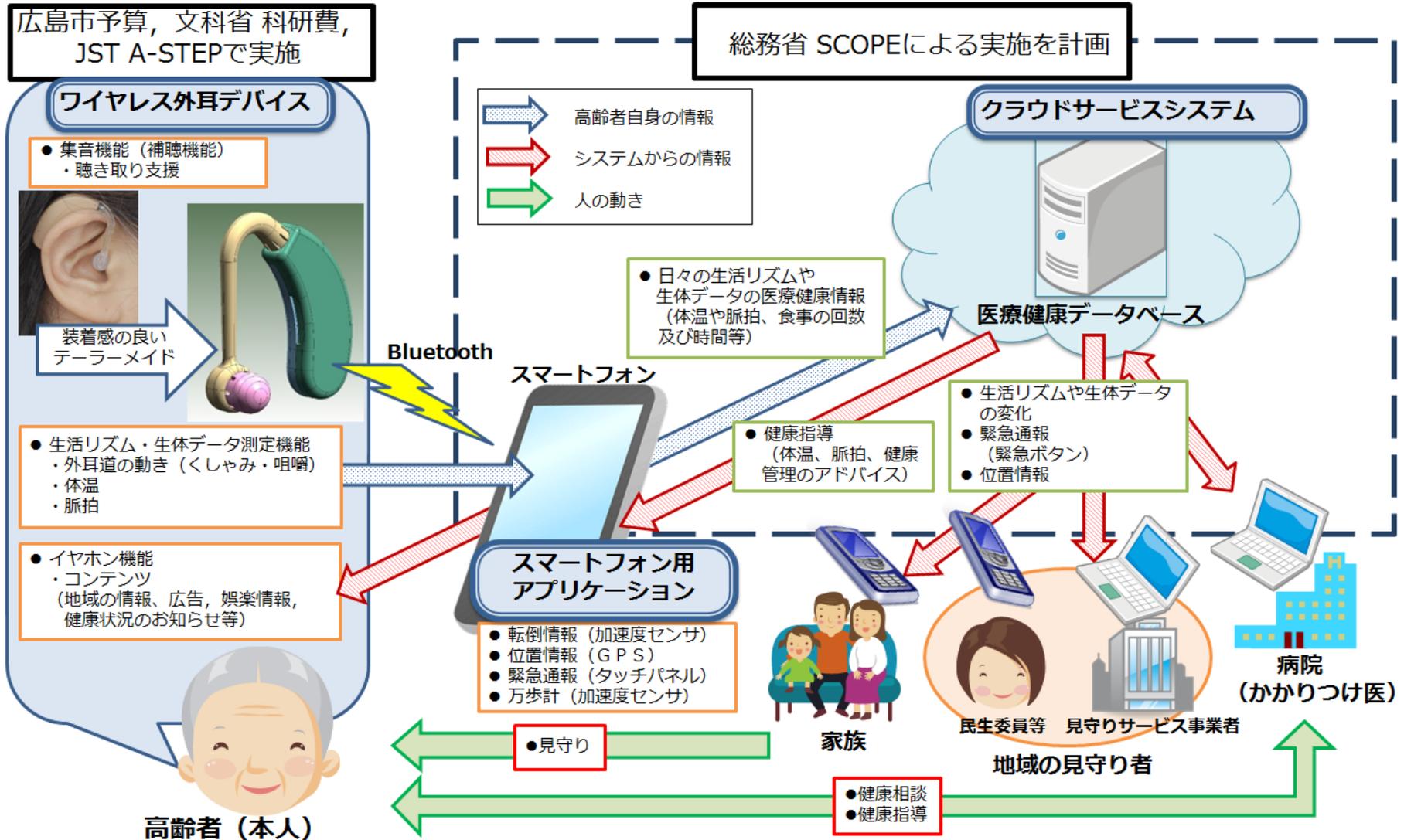
研究開発目的：地域課題 1 および 2 の解決

解決方法 産学官医連携による 高齢者見守り支援システム（製品）の開発

- 本製品の開発を通じて、高度なものづくり技術を有する地元自動車関連企業や、地元ICT系企業の医療・福祉関連分野への参入促進。
- 本製品の開発を通じた自動車関連技術や医療・福祉関連技術とのICT融合による関連分野への経済波及効果。
- 本製品を活用した高齢者の見守りサービスの提供の仕組みをつくる。

- 特許性(新規性・進歩性)、有用性を有する大学のICTシーズを本研究開発に応用することにより、ICTのさらなる発展と向上を図る。
- 地域大学を中心として研究開発することで地域において活躍できる地域大学や地元ICT系企業のICT技術者の人材育成を行うことで地域大学のポテンシャルの向上を図る。

研究開発の内容：高齢者見守り支援システム



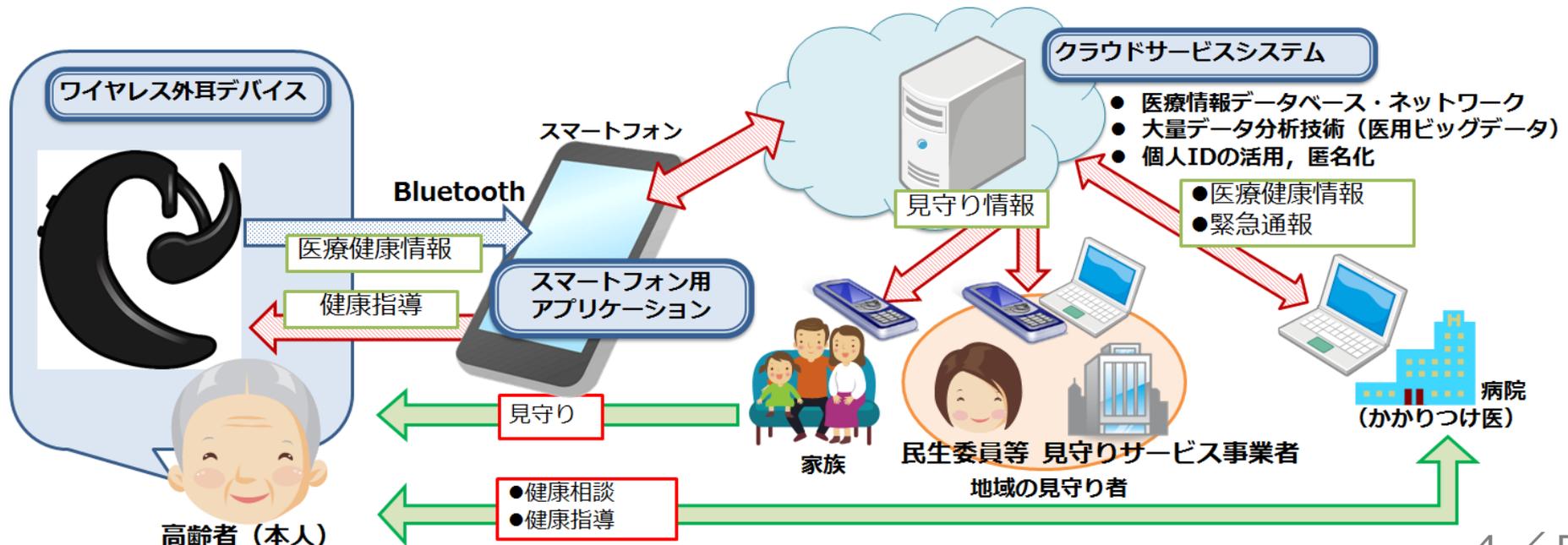
研究開発の成果

[1] クラウドサービスシステムの開発：

- 遠隔健康管理・診断手法の開発、医療ビッグデータ分析技術の検討と開発
- 医療情報データベースの開発、個人ID活用、匿名化
- 医療情報データベースのネットワーク化

[2] スマートフォン用アプリケーションの開発：

- ワイヤレス外耳デバイスからの情報を受信し、医療情報データベースにその情報を伝送、医療情報データベースからの情報を受信するための機能



今後の研究成果の展開 及び 波及効果創出への取り組み

研究成果
(3本の矢)

今後の展開

波及効果創出

総務省 SCOPEでの実施



スマートフォン用
アプリケーションの開発



ワイヤレス外耳デバイス
医療情報データベースから
の情報を送受信・処理



クラウドサービス
システムの開発



・遠隔健康管理・診断手法
・医療情報データベース
・大量データの分析技術
・個人IDの活用、匿名化

広島市予算, 文科省 科研費,
JST ASTEP等で実施



ワイヤレス外耳
デバイスの開発



高齢者見守りシステムの開発・製品化
産学官医連携体制

産 地元企業：製品化
・ICT系製造業者
・自動車系製造業者
・情報サービス事業者
・福祉サービス事業者
・放送事業者

学 公立大学：研究開発

官 広島市：実証実験実施

医 地元病院：医療体制構築

社会システムの構築（広島市）

高齢者見守りシステムを
活用して高齢者の見守りや
健康づくり・介護予防に関
する取組を行う新たな社会
の仕組みの構築

地域特有の課題の解決

地域貢献・地域社会の活性化

医療・福祉関連産業の新たに創
出することによりICTによる地
域経済の発展と雇用の安定化を
目指す。

ライフイノベーションの推進

ICTの活用によって高齢者に
安心と安全を与え、高齢者が
健康で自立して暮らせる社会
の実現。地域コミュニティ再生。

ICTの技術的・学術的な知見向上

特許性(新規性・進歩性)、有用性
を有する地域大学のICTシーズを
「高齢者見守り支援システム」に
応用することにより、ICTのさら
なる発展と向上に資する。
人材育成と地域大学の発展。